

「五頭自然郷（いつつむりのさと）」案

「五頭自然郷」は…いこいの森とその周辺の木霊を感じさせる自然豊かな地域。人と自然を繋ぐ場所。

多くの方（心と身体の弱者を含む）の憩いの場・自然と触れ合う場・生甲斐や遊び場として、訪れる人みなさんが自分らしく輝ける場所・幸せを感じられる場所。

その活動は…活動自体が「遊びの場・居場所・夢の場」としての存在。

関わる人たち自身が楽しみ、活力とし、「喜んでもらいたい！元気になって頂きたい！」等の純粋な気持ちで活動し、温かい心で迎えらる場所。

自然と一緒に、人の思いを重ねて…多くの人を迎え、生き物（森）のように変化し続ける自然郷

*単にいこいの森管理や山整備、観光地・地域活性を目的としていない



多くの人々のふるさとの場所となり、五頭の自然に愛着を持つ人が増える。

時代のニーズにあった「自然郷の全体像」

自然と人を繋ぐ場所として、いこいの森と畑江の森の管理。自然の理解と尊厳から、多様性のある大自然を生かし、生き物と共存し、人の希望との調和をとりながら活動していく。

【自然郷の活動】

会メンバー、いこいの森の利用者
自然に触れたい人達・心身の回復を望む人

【公に貢献できる場として】

（阿賀野市の自然の魅力を活かす）

- ・地元や温泉郷や行政との連携。
- ・出湯電気山道の維持

（自然を通しての健康と福祉への貢献）

- ・他団体との連携や利用促進
- ※福祉や児童・若者就労支援
- ※その他、各種支援の民間団体

これからは、身近な自然回帰の場、人が自然に繋がる場が重要になってくる。
都会型生活が主流になる中で、本来の自然に触れる機会が求められる時代。

☆心身が癒され、自分らしさを取り戻す場として。

- ・高齢者・身障者やそのご家族が自然の中へ⇒引きこもりや虐待防止に繋がる。
- ・居場所や存在意義を見失った方々のホーム的存在
⇒引きこもりの防止や気持ちの拠り所。自殺防止にも繋がる。
- ・都会型生活者・うつ病などの精神疲労者の安堵の場所。

☆自然との付き合い方を学び、生きている自然を肌で感じる場として。

- ・不便も不快も含む大自然を楽しむ中で、生きる力が身につく。
（創造力・適応力・判断力・ストレスの対応力）
- ・自然へ入る知識を身に着けることで、自然の中での事故防止に繋がる。

☆生き物の命を感じることで、命の尊厳を学ぶ場として。

いじめ問題への根本的感覚改善。